

令和7年度 英語科及びデジタル科実施状況について

(別紙2)

金沢市立十一屋小学校

①児童アンケート

(1)英語科(小学校5年生:令和8年1月実施) (%)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語科の勉強が好きだ。	26.0	44.0	21.0	10.0	0.0
問2	英語科の勉強は大切だ。	79.0	21.0	0.0	0.0	0.0
問3	英語科の授業の内容が分かる。	38.0	59.0	3.0	0.0	0.0
問4	先生や友達に英語で質問することができる。	31.0	51.0	8.0	10.0	0.0
問5	先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる。	31.0	41.0	18.0	10.0	0.0
問6	アルファベットの大文字が書ける。	74.0	23.0	3.0	0.0	0.0
問7	アルファベットの小文字が書ける。	67.0	33.0	0.0	0.0	0.0
問8	教科書やピクチャーディクショナリーの単語や英文を書き写すことができる。	46.0	36.0	13.0	5.0	0.0
問9	教科書の単語や英文を読むことができる。	26.0	59.0	13.0	3.0	0.0

(2)デジタル科(小学校1～6年生:令和8年3月実施)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらとも言えない	どちらかと言えば そう思う	そう思うわない
問1	自分やみんなのことを考えてICTを使うことができる。	69.5	19.8	6.4	2.3	1.8
問2	生活の中で上手にICTを使うことができる。	70.9	17.9	7.8	1.8	1.3
問3	深く広く学習するためにICTを使うことができる。	66.8	22.5	7.3	1.8	1.3

②指導改善の具体策

【英語科】 「先生や友達に英語で質問することができる」や「先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる」の設問に関して、「そう思う」と答えた児童の割合は昨年度より増えている。しかし「教科書やピクチャーディクショナリーの単語や英文を書き写すことができる」について「そう思う」と答えた児童の割合は昨年度と比べ大幅に減っている。そこで書く活動については、話したり聞いたりして慣れ親しんだ単語をなぞったり書き写したりする等、児童の実態に合わせた活動の場を設けていく。
【デジタル科】 ICTの使い方については、概ね肯定的に捉えている児童が多い。しかし、日常生活の中で、間違った使用方法により、トラブルが起こることもある。そこで、情報モラル教育と絡め、ICTを使う際の注意点を学べるようにしていく。また、生活の中でよりICTを使えたと児童が実感できるように、様々な教科でICTを用いて交流したり、データ活用を推進しながら、主体的、深い学びの実現を目指していく。

③学校関係者評価

【英語科】 現状と強み：外国にルーツのある児童が在籍し、他国の文化と分け隔てなく接する土台がある。児童の英語学習への意欲や意識も高い。 今後の期待：遠足等を活用した交流等も今後も続けながら、実態に合わせた学びの場を設けてほしい。恵まれた環境を生かし、自信を深めて「好きだ」「分かる」児童が増えることを願う。
【デジタル科】 現状と強み：児童は日常的にICTを活用して学習に取り組んでいる。今後もデジタル科の推進に向けた継続的な取り組みを期待する。 今後の期待：全国的にSNS等のトラブルが散見される中、本校の実態に応じた指導を行うとともに、家庭・地域と連携して未然防止に努めてほしい。